

教員志望の学生が減っている理由は

「長時間労働など過酷な労働環境」と94%が回答

教員志望者減少に関する教員志望の学生向けアンケート結果

1. はじめに

日本若者協議会は、若者の声を政府や社会に届ける「窓口」として、若者政策の立案、各政党との政策協議、政策提言を行っている若者団体です。

近年、教員志望者が減り続けています。教員の働き方改革に関して議論が盛んに行われていますが、解決の目処は立っていません。

そこで、日本若者協議会では、教員の労働環境などについて、当事者である教員志望の学生(高校生・大学生・大学院生)向けにアンケートを実施しました。インターネット上で回答を募集した結果、211名にご回答頂きました。

長時間労働の改善、部活動顧問の撤廃、給特法を廃止し残業代が支払われること、教員の人数を増やすことなど、数多くの課題が指摘されました。

2. アンケートの概要

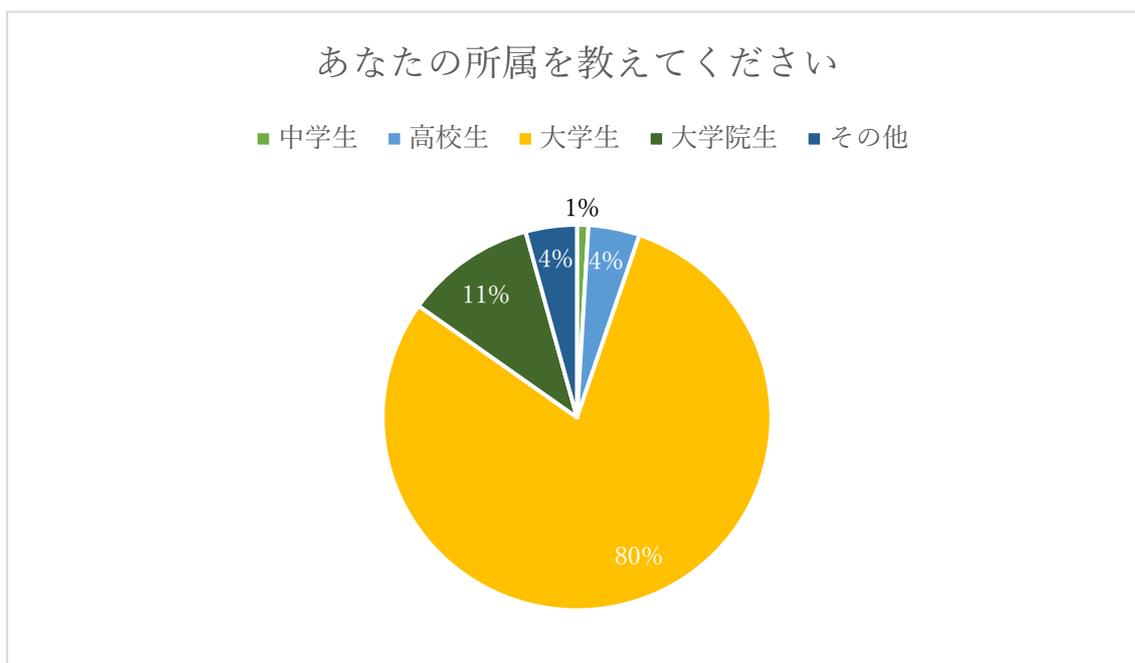
このアンケート調査は、日本若者協議会のHPやSNS上で回答を募集したWebアンケートです。調査対象は、学生(高校生・大学生・大学院生)で、実施期間は3月5日(土)～4月10日(日)です。

- ・調査方法 Web調査(日本若者協議会のホームページやSNS上で回答を募集)
- ・調査対象 学生(高校生・大学生・大学院生)

- ・調査期間 3月5日(土)～4月10日(日)
- ・回収数 211 回答(対象外の回答は除外)

3. アンケート結果の詳細

Q. 回答者属性



Q. 教員志望の学生が減っている理由は何だと思えますか？(複数回答可)

教員志望の学生が減っている理由は何だと思いますか？（複数回答可）（人）



その他の回答（一部抜粋）

- ・休みが取りにくい。（大学院生・2年）
- ・給与が労働時間に見合っていない。他の職種で同じ時間働けばもっとお金が手に入ると考えてしまう。（大学生・3年）
- ・22歳段階で求められる資質能力が高い（大学生・3年）
- ・#教師のバトン で教育現場の実態を目の当たりにしたこと。（大学生・2年）
- ・SNSで多忙さや不条理さを訴える教員の発信を目にすることがありますが、一部にはいかに注目を集めるかということに腐心しているように見受けられるアカウントもあり、そうした人と同業となると考えると、個人的には正直ゲンナリすることがあります。（大学院生・1年）
- ・奨学金借金して進学しても非常勤だと返済出来ないし正規でも体壊して退職すれば返済出来ない。学費激安の通信制なら問題ないが高校がその進学を認めないから逃げ道ない。（大学生・3年）
- ・旧態依然とした学校の体質が今の学生にそぐわない（大学生・4年）
- ・こういう教員になりたいと強く思えるような先生がいないから（大学生・3年）

Q. 現状の教員の労働環境についてどう思っていますか？(自由記述)

(一部抜粋)

・劣悪だと感じる。せめて、現在の残業時間の実態に合わせた調整額を支払うべきである。このまま放っておけば、目指す人もどんどん減り、負の連鎖になることは、大学1年の私からみても、想像に難くない。(大学生・1年)

・給料が正当でなく、長時間労働を要求される好ましくない環境であり、やりがいがあるとは言えど過酷すぎると思う。(大学生・2年)

・「教師の多忙化」の一言。「やりがい」に甘えて時間外労働等の大きな負担を強いているのではないか。また、授業準備に十分な時間を割けないのは特に問題だと思う。(大学生・3年)

・多くの教員は自分の身を削って生徒のために尽くしていると思う。その事を美化する風潮が教育界には根強いと思うが、それは生徒のためであるように見えて実は生徒のためにならないと考えている。教員自身が、一人の人間として自分を大切にする姿を見せていかないと、教え子たちも自分を大切に生きていくことができないのではと危惧する。(大学生・2年)

・割に合わないという現状がある。部活動などの課外活動については、それがやりたいという教員が一定数以上存在するので一概に悪とは言えないが、一般的には、専門知識がない部活に急に配属されることが多く、大きく負担になっていると思う。(大学生・1年)

・教員の本務である授業準備・授業以外の業務が多すぎると思います。とりわけ部活動顧問は手当が見合ったものではなく、ボランティア活動といっても過言ではない状況です。部活動は、教員の正式な職務として規定されてないものの、多くの教員にとっては、半ば強制的に顧問をやらされているのが実態であるといえるでしょう。部活動を外部に委託するなど、部活動の業務を完全に教員から切り離すことも現実的に考えた方が良くと思います。それができなくとも、業務に見合った給与を支払う等の改革は必要であると思います。

部活動以外の業務については、政府による上からの改革だけでなく、学校内部からの改革も必要だと思います。例えば、会議や事務作業など、削減できるものは積極的に削減した方が良いと思います。これは、学校経営の範疇でもできることだと思います。(大学院生・2年)

・効率の悪い働き方が残り続けており、改善が急務である。給特法をはじめ、文科省や教委、各学校の管理職による改革の質が良くなく、労働環境の改善はあまり期待できない。(大学生・4年)

・自分の生活を犠牲に出来ないと成り立たない(大学生・3年)

・やりがい搾取の現状を放置している職場環境に惹かれない。
なんと言っても、先日裁判を起こした教員の件が衝撃だった。
皆が「先生の仕事」と認識していた雑務なども「先生の仕事ではない、勝手にやっている事だ」と一蹴されてしまっており、誰も守ってくれない労働環境に失望した。
子供のため、社会のためと精神的な面ばかり強調し、労働者としての教員の立場を守る体制がない現状には疑問を抱かざるを得ない。(大学生・1年)

・部活動がなくなれば教員になりたいと言っている仲間が多い。部活が全て外部委託され、教員が関わらなくても良い環境が整えば労働環境は良くなる。(大学生・4年)

・法律を違反して働かせる管理職が多いという印象です(大学生・3年)

・一言で言えばやりがい搾取。それを現職の大半が受け入れてしまっている構図。
教師たちは、気付けば抗う余裕と時間が無くなり、自分らがとんでもない職場で働くことを自覚できないまま、「生徒のため」の奴隷とされてしまっている。
改善したい(されてほしい)が、事なかれ主義の管理職やベテラン教師が多く蔓延る学校ほど、改善など夢のまた夢なのだろう。(大学院生・2年)

・最悪、残業代出して欲しい(大学生・3年)

・残業代無しで定時前後の勤務が余儀なくされる現状の改善が急務だと思う。(大学院生・2年)

・業務内容の精選が出来ていないように感じる。

教育と一括に言ってもその内容は多岐に渡る。本来、教育とは学校、家庭、地域など様々な組織・人材がそれぞれの特性を活かし相互的に関わり合いながら行うものであるが、現在は人的・金銭的資源を超えた範囲でその殆どを学校が受け持っている現状(学校依存社会)にある。限られた時間・資源でより良い教育を行うためには学校で行うべき教育活動に優先順位をつけ、余裕を持った範囲で行われるように調整する必要がある。

また業務に非効率なものが多い。

教育に効率を求めるべきではないという考えも一定数存在するが、現時点で業務時間を大幅に超えた仕事内容となっている以上、時間的コストや成果に見合わない仕事は業務範囲に収まるように効率化していく必要がある。

業務が個人の能力に依存しすぎている。

業務内容が教科・分掌によって大きく異なるにも関わらず、最低限の質を確保するためのマニュアルが存在しない。そのため各教員の才能や経験に業務内容や業務効率が大きく左右されている。業務管理を行いやすくするためにも、初任から再任用まですべての教員が最低限、同じクオリティで業務ができるように、ある程度マニュアル化する必要がある。(大学院生・2年)

・結論から言うと地獄という言葉がふさわしい。児童生徒と向き合うことができていないため連携が取れていない。人も足りていないため、3人程度の仕事を一人で行わざるを得ない。人員補充に関しても、児童生徒数を基に杓子定規に決められているため余力がない。(大学生・1年)

・様々な問題が挙げられていますが、長年凝り固まったいわゆる「従来通り」を変えられないが為の結果だと考えています。私自身どうにか出来ることでは無いのかもしれませんが、部活動の顧問やそれに対しての給与などを見直すべきであると考えます

し、労働時間をどうにか削減することでその時間を教材研究や研修、自己研鑽、休息や趣味などに充てるべきであると思います。休息や趣味の時間は仕事を続けていくためには必要であると思います。(大学生・3年)

・どの学校でも定時退勤できる雰囲気を作って欲しい。仕事量に給与が見合っていないことが1番気になる。子どもための仕事であれば減らせ、とは言えないがせめて給特法をなくして、給与を上げてほしい。(大学生・3年)

・給与と業務内容、勤務時間が見合っていない。教員の魅力を伝える前に働きやすい労働環境になることを強く望む。(大学生・3年)

・長時間労働だし、それに似合わない給料なので教員はやめた方が良いと言われる(大学生・1年)

・本業以外の業務が多く、時間外労働の問題が気になる。また、精神疾患にかかる教師も多く、過労死が問題とされるため、子供の教育に力を入れたいのであれば、教師の残業問題に関わる部活動をどうにかすれば良いと思う。1番は部活動指導員を雇うこと。(大学生・3年)

・非常に過酷なものだという認識です。高校に3週間の教育実習に行ってみて、とにかく教員になるのが恐ろしくなりました。教科書の内容一通りの教材や授業をつくってみるまでの間は、非常勤講師などから始めた方が賢明なのではと感じています。(大学院生・1年)

・部活動に反対されている方が多い印象なのですが、個人的には、先生自身がやっていた競技だったりやってみたいことだったりしたら負担なくできるのかなと思います。“全員やらなければならない”というスタンスではなく、やりたい人がやればいいのではないかなと思います。

先生もプライベートや家庭があるので、17時半頃には帰れたり、休日の出勤も減ったりすれば良いのかなと思います。(高校生・2年)

・ストレートで大学院に通いながら中学校非常勤も勤めている立場で回答する。教員がする仕事なのか、境界線があやふや。時に警察の真似事をして生徒指導を行っていることもあり、疑問に思う。部活動もさながら、生徒同士のトラブルの為に教員は定時以降残って対応することもあり、プライベートの犠牲の上に成り立っている指導である。しかしそこに対価は発生していない。給特法の4%など今の教育現場には全く合っていない。対価を与えず結果ばかりを求め、それも教員のプライベートの時間の犠牲のもと成り立つ教育は破綻しているとしか言えない。私は教育に強い憧れを持ち志願して院まで進学したし、教育学部及び研究科では満足のいく研究や経験を積むことができたが、教員になる気はない。(大学院生・2年)

・早急に部活動顧問を外部化すべきだと思います。私は必ず教員になりたいと考えてはいますが、経験のない部活動を任せられそうで不安しかありません。また残業代の支給に関して法改正を早急に行う必要があると考えます。教員の労働環境を良くするために心から尽力いただけることを願っております。(大学生・4年)

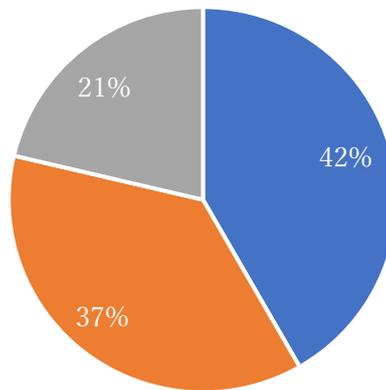
・教員になりたいという気持ちはありましたが、あまりにも多すぎる業務、当たり前になっている残業。それに対する残業代は給特法により固定。働き改革は果たして形ではなく本当に教員のために行われているのか。そんな事ばかり日々のニュースで見ます。大学でもたくさん学びました。入学時は教員を目指していた友人たちも、学べば学ぶほど教員を目指さなくなっていました。今の労働環境では、正直やりがいだけではやっていける自信がありません。(大学生・3年)

・両親が教師ですが、人生のほとんどの時間を仕事に充てていて、自分の家庭を大切にできる余裕がないことが何より辛いと思います。何か家族イベントがあるごとに謝っていて、何のための人生かと思うことがよくあります。教師は、教師になった人の人生を踏みにじる仕事です。(大学生・2年)

Q. 教員への志望についてどう考えていますか？

教員への志望についてどう考えていますか？

■ 志望している ■ 志望していたが、迷っている ■ 志望していたが、志望をやめた



Q. (「迷っている」or「志望をやめた」と回答した方にお聞きします) 回答

理由を教えてください

(迷っている)

・労働環境が過酷だから。また、教員になると原則学校に活躍の場を縛られると私は思っているが、学校以外のさまざまな立場から教育について考えたいと感じた。(大学生・2年)

・社会のことも詳しく知らないのに、大学卒業してすぐに教員になるのは、非常に不安だし、生徒のためにならないと思うから。(大学生・1年)

・やりがいのある、社会的にも大きな意味のある良い仕事だと思うが、光と闇の闇の面があまりにも多く思えたから。(大学生・3年)

・私は生徒一人一人と丁寧に向き合いたいと思っているが、現状の労働環境・教員という役割の中ではそれが十分に果たせないかもしれないから。(大学生・2年)

・部活動顧問などで勤務時間が長いわりに、待遇(給料)が比例しないから。就職活動をしてみたところ、大企業ほど給料も良ければワークライフバランスも全面に打ち出しており、やりがいでない魅力を感じました。(大学生・3年)

・子供たちを育てる仕事に携わりたいと強く思っていたが、自分の体を壊してまで働きたくないと思っている。

他の企業であれば、分業が進んでいるため育休や産休、有給など取りやすいと思うが先生=替えがきかない(毎日の授業を休めない)というイメージが強く、柔軟な労働ができないことに不安を感じる。(大学生・1年)

・労働環境や教員の生徒に対する人権意識の低さ(大学生・3年)

・複数の学校(校種)での実習経験から、良くも悪くも、管理職によって学校の職場は左右されることを理解した。殆どの学校は、管理職が、働き方に関して何らかの挺入れをしている中、学生目線でも分かるくらい管理職が機能していない学校では、ベテラン勢が長時間労働を善しとし、実習生にもそれを強要されたのには驚いた。(大学院生・2年)

・休みがきちんと欲しいので、部活の顧問などになり土日が潰れることに対して否定的であるため。そもそもそれをしたとしても正当に給料が支払われないこともおかしい。(大学生・2年)

・教員の求められているレベルと現実の職場環境が全く合っていない。さらに、残業に対しても適切な給料が支払われない。(大学生・3年)

・待遇が悪いため。民間なら同じ時間働いて倍近い年収になる。将来のことを考えた際に教員になりたいが、生活水準とトレードオフになる。(大学生・4年)

・学校の先生方に『教員目指すの?えらいね…応援してるけど、正直本当にブラックだよ…』『時給換算したら、500円いくのかな…?学生時代のアルバイトの方が明らかに時給は高かったよ』などと言われて迷っています。(大学生・3年)

・Twitter 上でみる先生たちのやる気の低さ、友達からの批判の声、会社で勤める方からの批判の声(大学院生・1年)

・教職の授業を受ければ受けるほど、現状の教育、労働環境に違和感しか感じず、教師になるのは難しいなあと思っています。(大学生・2年)

・教育実習校に行った際、教員間のセクハラが1年前まであった等、教員間のセクハラについて色々な話を聞いた。加害者の教員は特に処分を受けず働き続けており、しかも、実習生の私はその加害者教員のクラスに配当された。被害は受けなかったが、セクハラをしていた教員のクラスに配当されたのは精神的に苦痛だった。このような経験や見聞きした話から、実習後教員を志望することを辞めた。その後志が変わり再び教員を目指しているが、セクハラがスルーされ改善されない労働環境があることを思うと教員になることへの不安が拭えない。(大学院生・1年)

・教育免許も取得しましたが、正直国公立の中高では働けないなと感じています。給料や時間的労力が割に合わないと感じてしまうからです。(大学生・4年)

・高校教員(理科)志望です。理科のおもしろさや、生物や化学の大切さを伝えたいと思い教員をめざし始めました。生徒指導や進路指導ももちろん丁寧にやろうと考えていますが、色々な先生方の話から、その他の業務があまりに多いと分かりました。高校教員なら科目の勉強に割ける時間が小中よりも大きいだらうと思っていたのは甘かったなと感じています。また、自分の体力と要領で、それらを全うできるか不安です。例えそれができて、最もやりたい専門的な科目の勉強の部分がおろそかになってしまえば教員になる意味が無いのではとまで考えてしまいます。(大学生・3年)

・私自身授業を疎かにしたり、部活動で問題を起こした先生に出会ったことが多かったのだが、それ以上により楽しく面白い視点から学びの楽しさや生き方を教えてくださった先生にも出逢えた。そのような経験を元に子ども達を始め親御さんにも一緒になって生きていくための価値観や考え方を深めて行けるような先生になりたいと考えていた。しかし大学の講義やインターネットなどで聞いたり見たりした教育現場の様子で

は、部活動を始めとした活動に参加することで、教科を教える時間を割くことが難しくなっていることや教師間のいじめといった問題を知ることになった。また、知り合いの通う学校で先生が突然休むようになったということまで聞くようになった。このことを知り、自分の心や身体を犠牲にして子どもやその親御さんそして学校のために働くということは自分にあっているのだろうかと考えるようになったため、教員志望を迷っている。(大学生・2年)

・自身も学び続けることができるような教員になりたい。しかし部活指導など、定時以降の残業の存在で、教科の専門性やクラス運営に関する勉強ができないのではないかと感じている。最近では学習塾などでは、クラス担任制度も導入されたり、教科専門講師と教務で分担した仕事ができるようなところもあるので、さらに学校教員になるか悩んでいる。(大学院生・2年)

(志望をやめた)

・労働環境、待遇の改善が見通せず、自分自身を殺すことに繋がりがねないため。民間企業の待遇の方が良く、働きがいがあるため(大学生・4年)

・結婚して子供が産まれた後に、私生活と両立させられるイメージが全く湧かなかった(大学生・3年)

・今の労働環境でも働く人がいるとなると、今の劣悪な労働環境をサポートするようなことになってしまうと考えたから。(大学生・3年)

・週に1度など適度に休まない、普段悩まないようなことでも悩んで涙が止まらなくなったりする体質だとわかったから、休みが定期的に与えられる、又は休みの取りやすい職が魅力的に見えてきたため。(大学生・3年)

・労働環境的に身体がもたない、世間的に教員が正当に評価されていると思えない、臨時採用で数年働くことになることへの不安(大学生・3年)

・以前は教員もカッコよく良いかなと思っていたが、教育学部に入り教育について学ぶうちに、教員の仕事の広さ、拘束時間の多さ、賃金の面などでデメリットの方が大きいのではないかと思いました。(大学生・2年)

・倍率も下がっていて、憧れられる職業ではなくなった感じがして、魅力を感じない。先生は自由に授業できるイメージだったが、実際は管理職や先輩、保護者からの圧があったり、横並び文化があったりして大変そう。もっと自分がやりたいようにやれる仕事を探したいと思ったから。(大学院生・2年)

・教育実習で校長から強烈なパワハラを受けた。担当教員は見て見ぬふり。心を病み、相談したその町の教職員労組も「よくある話」ととりあってもらえず、教育の現場の腐敗っぷりに嫌気がさした。(大学生・4年)

・自分が見ている教育に対する視点と現場の先生方や同じ教育学部生(他学部の教員志望者)が見ている視点にギャップがありすぎると感じたからです。

私がこれまで大学に通って、何か新しいアイデアを提案した際、「いいね、やってみよう」と肯定的なリアクションをもらったことがほとんどありません(もちろん、自分が至らない点があるのは承知の上です笑)。高校時代の生徒会活動などでは、新しいアイデアに対して、良い点悪い点、採用するならどう改善するかまで話し合いました。しかし、公務員志望の学生が多い私の大学では、新しいアイデアは、悪い点のみに焦点が当てられ、どう改善するかまでは考えません。トライアンドエラーが苦手なのかなと感じています。

自分が思う良い教育を提供したくても、それができる環境が無ければ、私は教員として働く意義は無いと思ってしまいます。自分が思う良い教育を提供するために、校長になるまで待つことはできません。もし校長になった時に、また若い先生を苦しめるハメになってしまう気がします。

これは日本全体に言えることかもしれませんが、大人がエラーすることはいけないことでしょうか。どんな大人でもトライアンドエラーをして成長しても良いという考え方を実質化することが日本には必要かもしれません。

トライアンドエラーが許される社会になったら、皆同じである必要はなくなります。教員だから、こうならなくてはいけない、これをしなければならぬと過度に求めるのは、よりより教育者を排除するだけです。今の日本の教育現場は、熱意が大きすぎる人には窮屈に感じると思います。

こんな感じの背景があって、教員を志望するのを辞めました。(大学生・3年)

・卒業要件として単位が認められないため、履修の負担があまりに大きい。教員を目指すためには趣味や学業以外の学習の時間、また研究の時間を4年間も犠牲にしなければならない。

その対価として得られるのは安い賃金と重い責任。国家において非常に重要な教育という領域においてやりがい搾取と言わざるを得ない実情。(大学生・4年)

・労働環境が悪いから。残業代が出ないのにも関わらず残業はほぼ毎日あること、持ち帰り業務を行うこともあること、本来の業務ではない部活の指導があること。やりがいばかりを前面に押し出した採用説明で志望をやめた。(大学生・3年)

Q. 政府や地方自治体(教育委員会)、学校に求めたいことがあればご

自由にお書きください

・個別最適な学びなど児童、生徒それぞれにあった教育をするよう変化してきているのに事務などの作業が一切減っていないのは適切では無いと思う。学習指導要領だけでなく本業以外の業務についても改革を求めたい。(大学生・2年)

・労働基準法に反した給特法の廃止、部活動顧問を外部に、教員の数を増やす(大学院生・2年)

・教育は、国民全員が受ける、国の根幹を担うものである、このことを意識すれば、政策の優先度としては高いものではないかと、感じ取ってほしい。(大学生・1年)

・教職員の待遇を上げる。具体的にはデジタル化、電話対応を減らすなど。また、憧れだけでやっていける職業ではないのだから、サポートや補助の体系をもっと充実させるべき。さらには、優秀な人材が教員になりたがらないという状況を是正すべき。このままでは、教育の質が下がり続ける一方である。(大学生・1年)

・無駄な書類仕事など、不必要なまでの長時間労働を生まないための創意工夫を行うことが先決だと思います。

手続きのオンライン化や、事務専門の職員の確保、副担任制度の充実などまだまだ取り組む余地は十二分に残されているのではないのでしょうか。(大学生・4年)

・いわゆる給特法は、現在の教員の勤務実態に適合したものとはいえないため、廃止、もしくは根本的な改正が必要であると思います。仮に廃止、改正をしないのであれば、教員が納得するような説明があるべきだと思います。

教員一人当たりに対する生徒の割合が多いと思います。教員の数を増やして一人の教員が見る生徒の数を減らすべきだと思います。一方で教員の数(採用試験の定員)を単純に増やすことは、採用試験の競争率を低下させ、教員の質の低下を招きかねません。(採用試験における競争が激しければ教員の質が担保されると考えた場合)採用試験における競争率を高くするための方策の一つとして、教員の待遇改善等、教職の魅力を高めていく必要があると思います。(大学院生・2年)

・十分な数の教員を確保してほしいです。また、給料と勤務実態があまりにもあっていないと感じます。教職調整額を実態に合わせて変動させるなど、教員1人あたりの負担軽減と待遇改善の両面から取り組みをお願いします。(大学生・3年)

・まずは50年前に制定された給特法の廃止が必要であると考えます。

教員の質を保つためには、労基法に則った適正な労働時間や時間外手当などを確立すべきであり、それを怠れば教員採用試験の倍率の低下は止められないと感じている。(大学生・4年)

・現在の教育問題を解決する方法は

- ①現在行われている業務内容に見合うように、金銭的・人的資源を増やす。
- ②現在の金銭的・人的資源に見合ったレベルまで業務内容を絞る。
- ③現在の金銭的・人的資源で業務内容をこなせるように効率化するシステムを開発する。

のいずれかであると考えている。

教育の質を高めるために必要なのは研修でも講習でも試験の倍率を上げることでもない。現場に生徒と向き合うために必要な「心」と「時間」の「余裕」を確保することである。方法は問わないが、政府や教育委員会が現場の声を拾い、早急にこの2つの「余裕」を生み出してほしい。(大学院生・2年)

・部活動のクラブ化と校則の緩和(大学生・1年)

・ブランディングなど根本的でないところで教員を搾取する策はやめて、給与を改善すべきと考えます。(大学生・4年)

・担任が全てを抱え込むシステムを改善してほしい。意味のわからない校則や常識を作らないでほしい(中高生は髪染め禁止や学校への化粧禁止など)。性教育の充実(大学生・2年)

・給特法の見直しをお願いしたいです…。(大学生・3年)

・賃上げと労働環境の整備がされなければこれからも教職員志望の学生は減っていくばかりだと考えます。そうなると教育自体の質も落ちてしまい、そもそも教育云々の話ではなくなる事態に陥ります。一刻も早く、教員の在り方についてしっかりと見直す機会を設けるべきです。(大学生・1年)

・政府は思い切った学習指導要領の内容及び業務の削減策と給特法の廃止を、地方自治体は増員、業務削減・管理などに関する管理職への指導等をしてほしい。教員の業務と認められないことは教員にさせないようにきちんと体制を整えてほしい。
(大学院生・2年)

・教員の業務の一部を肩代わりする人員を配備することが、比較的实现しやすい策ではないかと思っています。教員を増やすというのは、教員志望者が減っている現状では難しいと思われますので。いずれにせよ、日本は教育にかける予算の割合が不当に少ない印象です。

また、世間が教員や学校に向けるまなざしは、至る所で良くも悪くも作用していると思います。教員(当事者)が働き方の改善を訴えても、世間がそれを封じ込めている感があります。当事者以外も問題を共有できるように、教育関係者以外のアピールを実現してほしいと思います(例えば、議員や企業を通じて教員のなり手がいないという問題を訴えかけるなど)。(大学院生・1年)

・法令遵守が基本でしょう。いじめ体罰は一般社会では暴行罪だろうし、校則も法律や憲法と矛盾するブラックなものが多い。教育だから治外法権で良いとはならない。デタラメは許されない。(大学生・3年)

・少なくとも部活動の顧問は任意にしてほしい。だが一番いいのは土日の大会を中止させることだと思う。特に高体連の大会。部活がネックで教職を諦める学生が多いことを知ってほしい。(大学生・3年)

・教員ひとりひとりの重荷を減らすために、現場の声をなにより大切に聞いてほしい。講師ばかり増やさず正規職員を多く採用し、ゆとりを持たせてほしい。同一労働同一賃金の原則をまもり、講師の待遇を大幅改善すべき。パワハラなどへの対応を厳しくしてほしい。教育実習生をストレスの吐口にするような教員や管理職を告発する窓口がほしい。立場的に弱い教職課程の学生を守るシステムがほしい。少なくない学生が被害にあっている。(大学生・4年)

・対児童生徒への性暴力に対して厳しい対応、未然防止をするのはもちろんですが、教員間のセクハラも厳しく対応してください。特に若い女性の先生でつらい思いをされている先生は沢山います。教員間のセクハラがスルーされ、対策をとったとしてもゆるい、この状況を変えてください。(大学院生・1年)

・子どもたちは、社会で育てる認識を持てるような仕組みを作って欲しいです。教育基本法などでは、教育は保護者が第一義的責任を負うとあります。第一義的ということは、第二、第三があるということです。つまり、子どもを育てるのは保護者だけでもなければ、教員だけでもないということです。祖父母や地域の人々も含まれるでしょう。

人類の歴史を見ても、保護者だけで子どもを育てていた事例はそう多くないです。社会で育てていたはずです。

「地域に開かれた学校」ということが叫ばれていますが、学校が地域を頼りやすい環境づくり、地域が学校を覗きやすい環境づくりを、是非、政府や地方自治体にお願いしたいです。

理想論かもしれませんが、折角、日本には塾文化があるので、学校と塾がお互いに教育理念を共有し、学校で役割分担をして子どもたちに教育すれば、知識提供と探求活動をバランスよく行えるのではないのでしょうか。(大学生・3年)

・労働に見合う成果が欲しいです。お金が沢山あればいいわけでもないですが、給料もなければ休みもない。それが当たり前になっている社会が正直怖いです。こんな甘いのと合うなら教員など目指すなという考えの人たちがいることが怖いです。教員も人間だと思いません。働くロボットではないです。限界があります。知り合いで教員になった人たちも、大変そうです。辞めた人もいます。先生は何でも屋じゃないと思いません。(大学生・3年)

・ブラック校則をなくしてください。私の高校は出身中学よりも厳しい校則です。女子は白靴下しかはけません。うちの伝統で清潔感があるそうですが正直意味不明です。伝統は校則より進学実績などに求めて欲しい。

コート以外の防寒着も何故か学校指定の高いカーディガンしか着れない。(女子)

高いし毎日着ないと寒いから洗濯が厳しいしかといってもう1着欲しいとも言えない。
ダサイカーディガンに4000円って。私立か。うち公立高校なんですけどね
……???出身中学に遊びに行ったらちょうど私の次の代からカーディガン自由にな
って色々なカーディガン着てて羨ましかったです。

あとスマホが校内使用不可です。文化祭での使用を認めて欲しい!と生徒議会が動
いたそうで可決されたいらしいですが職員会議で普通に却下されました。うちは公立高
校なのですが正直スマホ校内使用不可なのは県内でもうちぐらいだと思います。(高
校生・1年)

・一刻も早く給特法を見直してください。また、過去に実現できていた教員一人一人の
裁量に任せた自由な教育を推奨してください。そのうえで、非常勤講師を含めた適度
な研修の機会を設けてください(その際の手当ても出してください)。(大学生・2年)

Q. その他ご意見があれば教えてください

・知識習得系の学習に関しては、授業のうまい先生が解説している動画を見れば良
いと思う。わざわざ一人一人が準備して授業を行う必要はないように感じる。(大学
生・1年)

・世の中のたくさんの企業が、社員が納得して働けるような体制を作ったりして競争に
勝とうとしている中、学校は保守的な理由で体制の改善に胡座をかいているように感
じる。

他にも、副業OKにするのではなくて、副業しなくても済むだけの給料を与えて欲し
い。(大学生・1年)

・教職は保護者の職業の次に子どもたちが意識する職業であり、教職に就きたいと
考える若者はその魅力を実感していると思う。

しかし、それ以上の労働面の負の側面が多く、周りからの反対やメディア、ネットでの
影響もあり、目指すことをやめてしまうだろう。

また、それでも教職に就きたいという方は国立や私立に行くという選択をすれば、給
特法からは逃れることができる。

が、それは公教育の崩壊が近づくだけであると考えます。

一刻も早い改善を望む。(大学生・4年)

・この労働環境で働き続けることは、教育現場をさらに縮小させてしまう。声を挙げている現職の方々はほんの一部であり、崖の淵に立たされる方々は、忙殺されて声を挙げることも叶わないのだろうと思う。人権問題にも発展しそうだ。

若者が入りたいと思える魅力ある職業にするには、きちんと中身のある改革を行わなければならない。1人の若者として、児童生徒の為となる働き方改革がなされて欲しい。このままだと自らの人生を犠牲にしてしまいそうで怖い。(大学院生・2年)

・教育学部ですが、当初『先生になる!』と頑張っていた友人の半分近くが、今は就活(企業)をしています。スキルがあり優秀な人ほど、『教員のブラックな労働環境よりも他の環境で自分のスキルを生かそう…!』と考えるようで、今の労働環境では、正直教員の質が落ちるのも致し方ないと思います。私自身それでも教師は魅力的な仕事だと思っていて、実際に教師を目指しているのですが、将来辛い思いをしながら働くことになるのでは…と思うと本当に辛いです。ボランティアで関わる学校の先生方も非常に忙しそうで、児童や生徒にも悪影響ではないかと思います。

学校の先生方は法律により活動がどうしても制限されてしまうため、外部の方がこうやって声をあげて下さるのがとてもありがたいです。

子どものためにも、教師のためにも、少しでも労働環境が改善されれば…と心から願います。(大学生・3年)

・私は今教育養成系の学部には所属していますが、自分より遥かに教員としての資質がある優秀な友人が何人も教職を回避している事実が残念でなりません。大学側は、教員志望者を確保するために元校長などを呼んで「教員の魅力・やりがい」についてアピールしますが、学生側としては、教員にやりがいがあることは百も承知ですので、論点がずれているように思われます。やりがいと人間らしい生活を天秤にかけられたら、後者を選ぶ人がほとんどだと思います。(大学生・3年)

・教員の働き方に疑問を持って一度志望をやめて大学院に進みましたが、やっぱり教師になりたいという気持ちが強いのもう一度目指すことにしました。公教育の質を高めるためにも教師が健康に長く働き続けられるように、教育のための業務に専念できるように働きやすい環境を整えてほしいです。(大学院生・2年)

・教員になりたいという気持ちが、大学で学び、教育実習で現場を知るたびに揺らいでいきました。

どの自治体の説明会でも「やりがい」を強く挙げていて、「またここもか…」と何度も思いました。

教員を志望していた同期も半数が教育実習を経験して「自分には合わない」と諦めて一般企業に就職しました。(大学院生・2年)

・周囲の教員志望だったひとの三分の一が志望をやめています。その理由は、労働環境と、それに伴って満足に授業準備ができないことへの不満です。教職に魅力がないわけではありません。そこで自分が輝けないと判断していることが原因です。安心して子どもたちと接することのできる環境を願っています。(大学生・3年)

・若い人は結婚や妊娠が許されない現場もあると聞くので、女性が働きやすいような現場になって欲しいと思っています。また、勤務時間が長く、自分の子供の寝顔しか見ることが出来ないと話す先生もいました。朝の開始の時間を遅らせることも視野に入れることが出来ればいいなとは思いますが、保護者の仕事で早く家を出なければならぬ子供もいるので難しいところだと感じています。また、教員の急な体調不良等による休みにも柔軟に対応出来る程の教員数が確保出来れば理想だと思います。

(大学生・3年)

・教員の方々はもっと、生徒から尊敬されてもいいと思う。私は本当にすごいと思う。でも、定時に帰られる先生方と遅くまで残って部活の指導などをしてくださる先生方で給料にほとんど差をつけていないから、定時に帰る先生が悪になっていると感じるから改革が必要だと思う。

私が大学に行って教員採用試験を受けるまでに改善されていなければ教員の道についてもう一度考えるつもり。(高校生・1年)

・友達で既に教員をしている子が、校長からのハラスメントに困っている。教育委員会なども夕方には終わるので、夜まで仕事が残っている教員が職場から電話するのは厳しく、この1年耐えてきたと言っていた。とても辛そうだった。(大学院生・2年)

・教員の労働環境がブラックなことはもはや周知の事実。こんな状況であれば、教育を目指さない方が健全です。教育学部生は教員を諦めるか、人間的な生活を諦めるか、そんな選択を要求されています。少しでもよりよい環境になることを切に願っています。(大学生・3年)

・戦後の昭和世代の感覚がまだ抜けきれていない。価値観を押し付けてくるような先生ではなくて、時代に応じてアップデートできる臨機応変な先生に指導していただきたい。(大学生・4年)

以上